

より鮮度の高い水産物を

2026年
3/22

白糠漁協加工処理施設 竣工式

白糠漁業協同組合（山田明組合長）の新しい水産加工施設「白糠漁業協同組合加工処理施設」が完成し、竣工式が行われました。

式には来賓や関係者など約20人が出席し、山田組合長は「無事に完成を迎えることができました。白糠の水産物が全国に安全・安心に提供され、安定した漁業経営につながるものと期待します」とあいさつしました。



あいさつする山田組合長（中央）

白糠漁協加工処理施設

この施設は旧恋問館から移転し、新たに白糠漁港近くに整備されたもので、水揚げ場所から加工処理施設までの距離が短いことから、より鮮度の高い水産物の提供が期待されるものです。

同施設にはタコぬめり取り機や真空包装機、活魚いけす装置などが導入され、衛生管理の向上が図られます。また、加工品の直売所も併設されます。



加工処理施設の外観と内観

研修通じて知識深める

2026年
3/27

町女性団体連絡協議会 の女性のつどい

町女性団体連絡協議会（池田昭子会長）は、社会福祉センターで「女性のつどい」を開き、参加した約50人が研修を通じて知識を深めました。

今回は北海道健康をまもる地域団体連合会の道東ブロック研修会も兼ねて実施し、講演会では、同連合会の齋藤芳子会長が「健康づくりは男女共同参画で！」～結核とガン予防について～と題して講演しました。



講演する齋藤会長

社協へ善意の24キロ

2026年
3/27

鉄北2区町内会婦人部 がリングプル寄贈

鉄北2区町内会婦人部は町社会福祉協議会にリングプル24キロを寄贈しました。

この日は朝井由貴美部長と野村郁子顧問が保健センターを訪れ、岸本秀彦会長にリングプルを手渡しました。朝井部長は「このような活動が広まり、一人一人が福祉への関心が高まってくれればうれしいです」と話していました。



左から野村顧問、岸本会長、朝井部長

足腰と脳の活性化図る

2026年
3/21

ウォーキング講習会

しらぬか健康ウォーキング事業の一環である「ウォーキング講習会」が総合体育館で開かれました。

講師を務めた株式会社オカモトの石澤香苗さんと石山大地さんが、はしご状の器具「ウォーキングラダー」を用いたウォーキングを指導し、参加した13人は横移動や後ろ下がりなどのさまざまなステップを踏むことで、足腰の強化と脳の活性化を同時に図りました。



石澤さん（中央）から指導を受ける参加者

笑顔でボール追いかける

2026年
3/20

第17回しらぬか バレーボールフェスタ

町バレーボール協会（池村美博会長）は、町技であるバレーボールを1日楽しむ日として「第17回しらぬかバレーボールフェスタ」を開催しました。

小学生から一般まで計12チームが参加し、勝敗にこだわらず、笑顔でプレーしていました。池村会長は「低学年で試合に出られない選手も試合に出て楽しんで。普及のためにも毎年、開催していきたい」と話しました。



フェスタに参加した選手たち

春風受けながら疾走

2026年
3/22

第47回白糠町ロードレース大会

白糠陸上競技協会（坂本勝雄会長）が主催する「第47回白糠町ロードレース大会」が、総合体育館前を発着とする特設コースで開かれました。

「1年の走り始めは白糠から」をスローガンに、道内のランニングシーズンの幕開けを告げる大会として定めています。今回は道内外から672人が出場し、3km、5km、10kmの各コースを春風を受けながら疾走しました。



号砲が鳴って勢いよくスタートするランナー

結果の差は肩甲骨にあり？

2026年
3/21

スポーツ指導者研修会

指導者の質を高めることなどを目的とした「スポーツ指導者研修会」が総合体育館で開催され、指導者やスポーツ選手など、52人が参加しました。

研修会では、旭川市で接骨院を営む錦川博文院長が「なぜ同じ練習をしているのに結果が出る選手と結果が出ない選手がいるのか～肩甲骨の関係と実技～」と題して、講演しました。



肩甲骨の可動域拡大のメリットを話す錦川院長